履修系統図

医学科

各分野の学習・教育目標

一般教育
生物・物理・化学や英語といった科目が中心となります。履修科目や受験科目の関係上、物理または生物を履修してこなかった学生のために「基礎物理学」「基礎生物学」などの未履修者向けの科目を配置するなど、今後の医学教育にスムーズに対応できるよう配慮された力リキュラムを構築しています。

基礎医学
人体の基本的な構造・機能を学びます。専門分野ごとに分類して学ぶのではなく、有機的に統合して学べるカリキュラム（基礎医学系ブロック講義）が構築されています。

臨床医学
医学の最も実践的な分野である臨床医学を PBL テュートリアルと学系・分野の枠にとらわれない統合型講義のハイブリット形式で学びます。

社会医学
医療環境や病気の予防、法律と医学の関連についての研究など、患者さんの病態についてではなく、その周辺領域について学びます。

臨床実習
臨床実習は BSL(Bed Side Learning) と呼ばれるとおり、実際の医療現場で患者さんの接し方や診断・治療法などを学びます。
５年次は１グループ３名程度の少人数制で１年間かけて付属病院等を含めた診療科全科で実習を行い、６年次は学内だけでなく学外でも BSL を行うことができます。

総合講義
総合講義は、６年間の総まとめといえるもので、これまでに積み上げてきた知識を整理して再構築します。

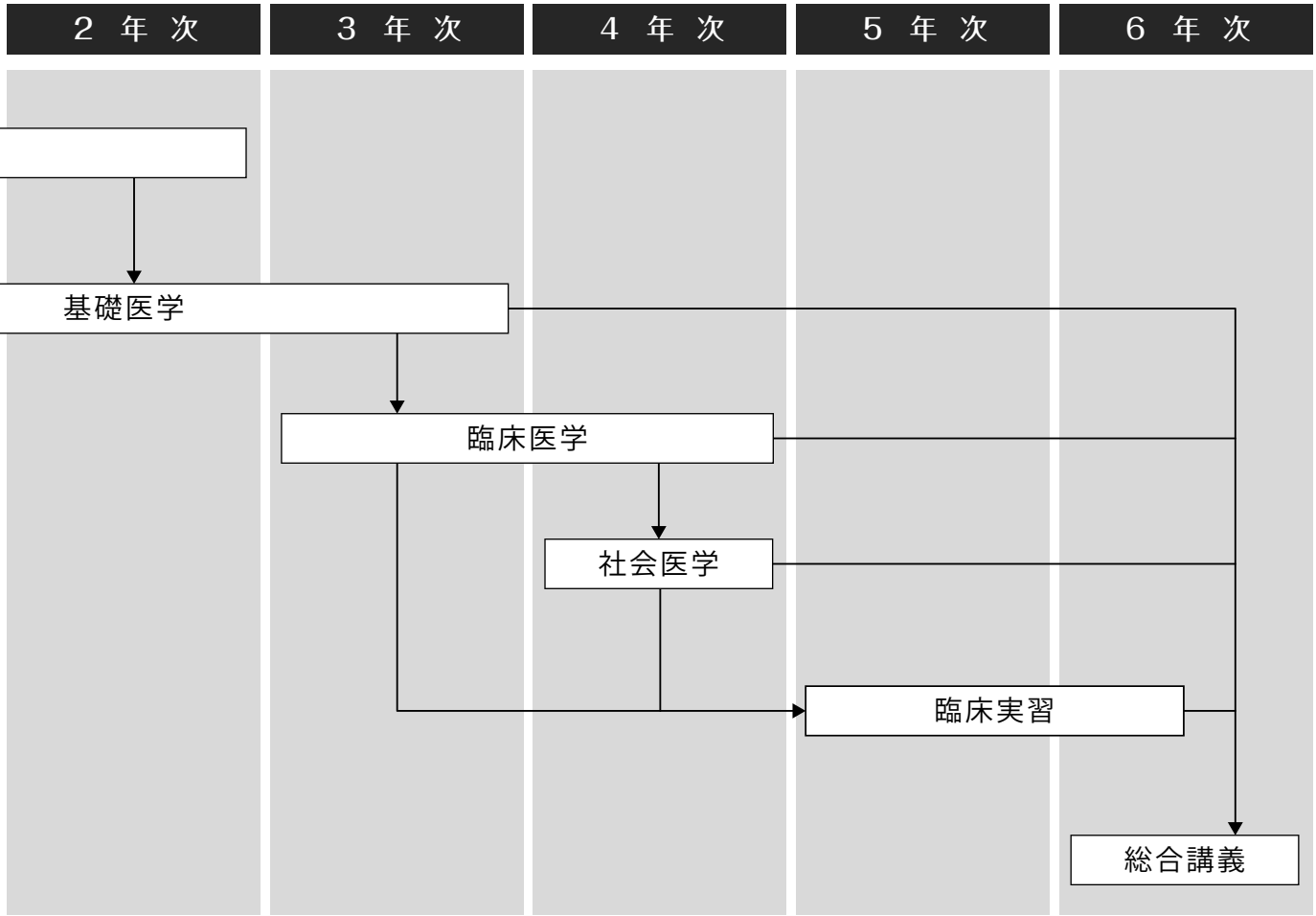
１ 年 次

一般教育

カリキュラムの主な概要

６年間を通じて、一般教育、基礎医学、臨床医学、社会医学の各分野を総合的に学習します。１年次では一般教育科目とともに「医学序論」・「社会体験学習」を配置し医師を目指す者としての使命感・倫理観を学び、2 年次からは基礎医学を機能・構造別に系統立てて効率よく学習します。３年次から４年次にかけては従来の知識伝達型の講義ではなく、学生自ら問題点・解決法を抽出していく PBL テュートリアルを導入して臨床医学を学びます。これにより自分で考え、自分で問題点を抽出し、解決に向けて努力するという学習習慣を定着させ、５年次から始まる BSL(臨床実習) に備えます。BSL は、１グループ３名程度に分かれ、救命救急センターをはじめすべての診療科で行います。６年次では、総合講義でそれまでの講義や実習を総合的にとらえ直し、知識を深めます。その他、自由選択学習 (学外・海外も可能) や、選択 BSL を設け、学生の自発的な学習意欲に応えています。

病める人々に対して思いやりの心を持って接し、奉仕することをいとわない良き臨床医と、優れた医学研究者、並びに情熱を持ってそれらの養成に当たる教育者の育成を目指しています。従来の受け身型教育から自己啓発型教育への転換を図り、入学から卒業までの6年間を通じて、一般教育、基礎医学、臨床医学、社会医学の各分野を総合的に学習し、人間性に溢れた倫理観のある人材育成に努めています。



履修について

1．　授業科目の履修方法は「学年進級制」であり、留年した場合は当該学年の全授業科目を再度履修します。

2．　授業科目は一部で選択制のほか、すべて必修です。

3．　１・２年次においては、良き臨床医・医学者になるために必要不可欠な一般教育および医学専門教育に必要な基礎的教育を学習します。

4．　３～６年次においては、医学に関する専門的知識および技能を習得するのに必要な基礎医学科目・臨床医学科目・臨床実習科目および統合的な授業科目を履修します。

5．　３年次以降における学科目の配列は、基礎医学科目から臨床医学科目へという原則と基礎医学・臨床医学科目間に有機的関連をもつ統合的な学科目からなっています。

6．　臨床実習は、直接患者さんに接しながら体験的学習をするので、その時期までに医学の全領域にわたり基本的知識と技能の基礎を習得しておく必要があります。